

此
松
風
瓦
過
學
完



丙寅三月

丙寅三月 試筆

松を

のぼる花の香

松を

松を

松を

丙寅年月次句合
陸月のあつこ

屋く梅屋くぬしやはる乃れ
 於らまゝ 子も小袖をてむの妻
 夕の草よめくふふおををせり
 大津弦の襖をひしや花のちる
 通し矢は矢射も噴上む乃者
 この世乃命をくししを船の春
 花れまゝのときりりはき掃除
 聾娘の佳才や里も花のちる
 屯のける取ちしりり主観
 本陣もと幕しきりりせり
 乃れしりり世をちるもむの妻
 又子積る怨し忘れて花乃者

下総てし 故 投
 上総前谷 車 棗
 上毛ウラカ 知 二
 沼田 大 椿
 江戸 稚 籠
 野 曉
 上毛津系 九 鳥
 カサネ 梳 南
 下ノハ 化 昔
 玉秀 魚 群
 乃れ 知 二
 女

二

初くく文も春より花の春
 有雪の友よも何なり屯のはる
 訪むきも物なをわけよ冬の妻
 吾言よいそしき世や世乃者
 時をばし取地よ取よ花のちる
 役る乃鞍も何なり 妻はける
 庭掃ハ雀の言花乃者
 馬追々衣の破れやし花の春
 嘆の納豆ハあつて妻く
 七種や氣ハ何れめく梅元
 ちるく乃名も言をすよ世男
 七種やしと氣ハ且如小起され
 七く何や春を養ふ粥乃味
 形く色も世破れくく坊々妻

上毛ハルナ 連 水
 江戸 如 柳
 江戸 鳳 尾
 上毛津系 掃 之
 カサネ 車 棗
 下ノハ 紫 睡
 田 白 羽

七種やし是も旅地乃貢この
 七々や州の中らるるの思
 形くさや恋めしはは秋の叶
 七種やしと起て来し男れ子
 其女梅乃屋より付り小多の菓
 籠りの菓やこけれしもの思らぬ
 多乃菓よおとせし初し日初が
 鳥の菓や、菓の響るるの香
 多乃菓や花のたしき都も
 きれくけし中も声の菓をふ
 多の菓や湯立のりあらしり
 けし菓の刺しあやし、菓の菓
 多乃菓く下るふき山邊に
 多乃菓く菓を足付り長廊下

へり
 江戸
 上茶室
 へりや
 八丁
 音井
 江戸
 へり
 へり

素波
 友枝
 玉枝
 松圃
 琴輪
 井輪
 百童
 車
 如柳
 南交
 弁碎
 遠思
 东湖
 百路

多の菓やし置直されぬさうち
 多乃菓くちふ多尺でわらや枯梅
 多の菓やしあらしり小伏
 鳥乃菓に云ふおとせし菓
 多乃菓の流矢りりるるの菓
 多乃菓や菓布しきし細白
 何れもや菓のねくく焼の声
 枯木の菓やし、菓や菓の菓
 吹風は満乃菓さよ菓の菓
 多乃菓やし紙吹菓は局達
 作らしたる菓やし菓の菓
 多乃菓やし菓の菓やし菓の菓
 多乃菓やし菓の菓やし菓の菓
 多乃菓やし菓の菓やし菓の菓

江戸
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり
 へり

帰亭
 野州
 杜来
 菓
 綿市
 玉
 鳥
 上茶室
 一庭
 仙李
 東来
 二
 桂之
 女
 女
 花
 流

きはくふのき

舟乗し川濁来る其の船
けり風や斤帆くさくまゆ一ッ
ま風や不切春の本乃宿り
ま風や已り東ハ汐曇
たるか智や目と修験の色木
水車衣定免る一喜の凡
春風やし取れ一さ満士の勢
ま風や其の吏はさるもけり
はるをや水の月ありあふ浦の秋

為品カキ 中書
江戸 馬喰
雪彩
守徳
白里
其雲
玉路
一瓢
ハナ 芦鴨
江戸 百尾
燕尾

枕さくやし之とややと色の彩登爰
此ふいつとのせぬと枕の花
桃咲く船の宿千日和の帆
尻さけ浪知かり乃葉
添文子母もさるも枕の花
春毎く枕のけりや問の宿
夏二日くらまると春の笑にけり
冬も雪やし花の色ハ柳 留さ
春くいと枝小千草や枕のむ
枕さくや家ハ留めても女了士
冬も雪し一日雪も交田舎が
冬はくくは流くくぬきや枕の冬
枕笑やしあさみの宿り知隣
春をくひるは毛虫よ桃の花

四
椎ガキ 紫雲
カリヤ 眠霍
江戸 一方
又二夕 大椿
てじ 松翠
ハルナ 馬堂
上毛八幡 如源
可無 可無
可雲 可雲
不路 不路

侍て又まは二年は佳し枕の花
 けりしやちりの中若ふ梅乃花
 海人のりと笑を次女よもの憂
 枕のや梅より丹の雲の刺
 多入せし木よりも足は枕の花
 枕のよれさや小歌に梅乃香
 垣根もも知くも枕のさうりう形
 きののち御代友は脊戸度し
 公枕やし双紙本一も梅の先
 家をく求合るを丁のよれが
 けり居や梅やまより一も梅より
 申へ丁やし雲のよきの何とより
 くの丁よま暖き梅より
 安はくしし一もよりてぬる丁

江戸 柳子
 周巴 其雲
 雅新 村江
 カミ 武加残子 五峰
 カサ 沼田 一醒
 江戸 百里 中
 カサ 利中
 江戸 三江
 吐花
 花光

五

月香より命合く啼不
 破るをよむるあまを梅の雁
 けり丁やし花くく遠くは雲の
 ぬる丁よし梅のあまの夕
 くの丁泳きせはをさし
 花よの梅のよるさあふる丁
 けり丁やし子細のよる浦乃石
 安はく子せしんくしし梅の丁
 けり丁やし世はあふる梅の星
 中へ居や梅をよるれ梅の声
 けり丁やし香う何くぬる梅のむ
 神年やし友佐の家のに泊り照り
 ちつりやしまね飲の下やま
 初年やし玉社詣も出来ん

秋年 好秋
 孤舟 二
 梅仙 小里
 魚群 東里
 芦精 如柳
 松葉 金交
 有 一
 静等

初年やしうれ鳥のねもすら
 まらふやし出村ふそくく糸少憾
 初むまやまらふれぬ孫匠の始
 はつ年れ位連よるり勝業
 神午年苗代業もけりり
 初む自平し庭の地結ふ屋敷さ
 ち川午やおま履車は庭先
 ふ竹よハわれぬちくや芦の角
 芦の葉に氣まひりし二日月
 おめつりし海さう門田や芦の角
 いと起よ家を知るや河乃つ
 飛くや耕や田ふさゑの角
 漢川も春強く芦の角組ぬ
 安道ハ汐のさりり芦乃角

武蔵子 義堤
 ハルナ 菅丈
 上白井 鏡子
 江戸 梅旭
 上総モリ 杜来
 エモホ塔 窓竹
 上総モリ 梳南
 エモホ塔 琴雅
 カリヤ 多路
 江戸 仙李
 白道
 玉枝
 竹碎

六

芦の角やまらりうらの川さひ
 田りあつて畑さうくく芦の角
 大なるねむと足ぬき平し河一のつ
 世の角や風ハ流ふ見あう
 安一の角やゆりくくと水乃角
 芦の葉乃小川ふ見てあはれ
 引よ一船の流りり芦の角
 岸の切やちうらう角一初芦の角
 ちちくくやうまら入江や世の角
 坂売もよりのにさりと 芦乃角
 初く一木のさふく 芦の葉さび
 青竹由一隙を川や芦の角
 さう原のさきき屋はあ一の角

来賀
 鳥崎
 芦暎
 貴後
 共雲
 武八王子 沙雪
 栄女
 権筆
 宗二
 北海
 晴雨
 眠處
 カレハ 中書

以
 屋
 の
 角

浪をこしし風さ記初る葉掃が
 少ちあやせきもちふねのうらふん
 夜半やあのみけはれちうら
 山門を尹越のねや夜のみ
 花の元ん早る浪の片一か
 舟乃る色し花うちうらうら
 ち近くくもせ時夜の方を
 花のほそくぬねを掃ふも
 埃除けの身を清く夜ん
 ちちの世ををうらうら
 いつしうらうらうらうら
 夜半や長くしりの眠るさ
 初るかー夜の初をうらうら

江戸 鳳尾
 うらうら 二
 浪田 女
 上板真 夕雨
 上二小城 夕雨
 五柳三三 嚙石
 てし 宗二
 、 雄豪
 、 真群
 いっ子 除暗
 うらうら 二
 下ノ々 秀是
 生所 呂周
 カ号両坪 可笑

船くけて飯くく上平夜の花
 かちあやせきもちふねのうらふん
 夜半やあのみけはれちうら
 山門を尹越のねや夜のみ
 花の元ん早る浪の片一か
 舟乃る色し花うちうらうら
 ち近くくもせ時夜の方を
 花のほそくぬねを掃ふも
 埃除けの身を清く夜ん
 ちちの世ををうらうら
 いつしうらうらうらうら
 夜半や長くしりの眠るさ
 初るかー夜の初をうらうら

ハルナ 可真
 ハルナ 如源
 くらカ 燕佐
 下サ依系 春二
 上二小城 知二
 江戸 春二
 ハルナ 春二
 下ノ々 秀是
 てし 秀是
 、 静子
 磯子 静子
 クラカ 松女

+

根を指して海へさし海へさし
 此の海へさし海へさし海へさし
 口乃新のちりりりりりりりりりり
 付の海へさし海へさし海へさし
 引の海へさし海へさし海へさし
 吹風て海へさし海へさし海へさし
 海へさし海へさし海へさし
 流まき海へさし海へさし海へさし
 定て海へさし海へさし海へさし
 割裂て海へさし海へさし海へさし
 こと海へさし海へさし海へさし
 念入て海へさし海へさし海へさし
 尾寺八門を戸へさし海へさし海へさし

カリヤ 仙李
 上毛大戸 花陵
 依良多井、 長扇
 ヤカタ 一醒
 江戸 鳳尾
 、 杜来
 、 東賀
 ハルナ 如英
 小城 玉路
 江戸 玉泉
 、 其雲
 、 玉枝
 、 雅染
 、 菊心

本より取り海へさし海へさし
 長し海へさし海へさし海へさし
 白より取り海へさし海へさし海へさし
 女より取り海へさし海へさし海へさし
 寺より取り海へさし海へさし海へさし
 寺より取り海へさし海へさし海へさし
 寺より取り海へさし海へさし海へさし

うららの 二
 カリヤ 仙李
 江戸 下路
 武八幡山 坂
 ハルナ 女花
 江戸 尾

卯内

いさよ海へさし海へさし海へさし
 籠舟も海へさし海へさし海へさし
 妻も海へさし海へさし海へさし
 一より取り海へさし海へさし海へさし
 古より取り海へさし海へさし海へさし

江戸 鳳尾
 江戸 静篤
 江戸 雅純
 江戸 下路
 小塚 多路

扇の水車一せんまのり
ちりくくと流る流りし村あり
せんとてんてのりくぬぬ村あり
増あふらまぬをせぬの在
かまらはこいそぬ水乃あふれか
端の團り茶舎あふり村あり
新うらにまの滑やしあふり
あまのりく踏きくさる流の混
村ありあふりくさる流の混
花のあふり流る流りや村あり
田を植るあふり合よまらり
跡まのあふり田西平し村あり
昔のあふり流る流りり村あり
村ありあふり流る流りり村あり

五カキ
カキ
ヤカ
上カ
カ
了
ハルナ
武子
番
ハ
江
風
燕石
嬰波
一醒
九鳥
村江
一玉
魚群
松美
東東
南分
可鳥
遠思
風尾

吟水とハ名すあふりあふり松美
鎌倉と山と笑ふは川鯉
むせぬく幸子好くし神鯉
聖なる命あふりり初松美
舟のあふり流る流りり初松美
禁酒してあふり流る流りり初松美
鄙りのあふり流る流りり初松美
書に倦てあふり流る流りり初松美
考りに糖炉のあふり流る流りり初松美
書に倦てあふり流る流りり初松美
割茶うれてあふり流る流りり初松美
同じく先づくあふり流る流りり初松美
なるあふり流る流りり初松美

九
てりし
ムロ田
武子
江戸
二井サキ
カキ
てりし
ハルナ
江戸
岸
藤
令交
松好
岸
百里
尾
岩
枕南
魚群
芦
馬堂
苛言
志思
岸

藤の葉やしるの羽戸ふまき
洞多れ筆毫尺く透やまの原
雪の上乃深氏今しきすれ
外と形の子と巻く
青すくぬりく塩岳の刺が
雪の戸もせり交りぬきす
まきとこれ思きく
河の海りくはみ本を初ら不

皁月ハ

松明よハちりの飛岩屋が
油きる葵の花や乃乃さ
ふほりや飽奥横る市の形
我の杖よりいつ越し
花方留や雪ふをたハ秋の叶

くろの 一 二
てし 一 陸
、 平 之
、 里 山
上毛板子 夕 雨
江戸 不 里
、 長 雲
、 来 賀

カリヤ 仙 亭
江戸 鳳 尾
、 雅 籠
上毛鼻 湖 月
ハルナ 芦 鷗

十

つるまきやうらみ付たる何か
あよりり十八九級 花 葵
一ッ作の機こいさるあふか
梅陽中し林の灯りく雲の影
かハちりや炭扱活しし家
蝙蝠やし唐の又焼籠火の
ふほりや飽奥横る市の形
梅陽やし雪ふをたハ秋の叶
ふほりや飽奥横る市の形
雨乞し僧も足て舟の田植が
まきとこれ思きく
植あうら安山子陽尺き山界
はあふさハ記する田植の
井はより携て四六日田うが

てし 東 里
上毛井 車 交
江戸 志 思
、 安 井 柳 媚
又マタ 書 郊
ハルナ 如 柳
てし 静 宮
、 百 路
、 魚 群
、 雄 峯
、 山 曉
、 百 童
カサモリ 翠 波

実のな近の若ハ安くもぬ田植が
 ゆくはけ戸さくぬ村乃あそびが
 田植もや渡地よ厚き苗死す
 入替り祝を休りて田うへが
 形も業を女に何す田植分
 弦射筆よくとやきき競馬か
 博といふりの見もく死ぬるま
 宗勝てやうりりりりりり
 うく馬意越をもあそび笑ひり
 菊ふの節う心笑ゆる葵が
 梅より一田うしめくも風浪る

田舎集うけあ終筆

水月

神酒をらほよえとらと雪

江戸

来賀

ハル十 芦花
 小城 香路
 江戸 鳳尾
 、 玉枝
 、 百玉
 、 仙尾
 、 仙李
 武八幡山 坂賀
 江戸 山湖
 りや 仙李
 、 仙李

川舟中紫幕りり奥乃泥
 岸やし浪の岸の注のりり
 うき舟や波よめく浪しき
 浮草やぬき舟一春の根うも
 岸舟ゆるゆる浪し花のけ
 岸よりや浮く舟船も洋も
 う浪るや世を多形も笑てり
 岸舟しるり流れて舟し白
 致乃あやもき枝の葉も
 夕暮の若求まは啼びしが
 羅織にいとりもやや啼しが
 刺し写稿ハ喜神の影か
 群る故せしもの一くもさる
 わる舟を録し舟れが故の啼ぬ

風尾
 山曉
 雨蛙
 花陵
 宗二
 百姫
 班曉
 玉枝
 中書
 南陽
 玉玉
 坂賀
 板南
 紫景
 江戸
 上名大戸
 江戸
 カニ
 てりし
 江戸
 武八幡山
 モリ
 二冊サキ

都の路をこし小石のよき境のよき
 ぬれぬ故やあはれ静まれば人まじく
 新骨車に隣は多くて呼吸は
 致柱のよけ也猿ののぼるより
 船乃好や港より船くも取たり
 故のありやし書損なりき字物
 うけあるや救にえれ一尾一ツ
 雪洞の糸ののりく呼吸
 故のありやしこころまじく門板
 船乃好や一ツ二ツの耳まじく
 村のありやしき夕戸のむれり
 川村中し先取あはれ境なき
 川よりや柳のふきよかて月入る
 かはうりやし洗術をさよき小魚也

三、 如
 、 百
 、 カリヤ 仙
 上公井 南
 江戸 鳳
 細川之宮 舟
 江戸 碧
 、 音
 、 芥
 、 共
 、 義
 イツ子 山
 夕井、 枝
 、 五

川村ノ一はるり一にし雨濁
 降かろたなり形まかきし夏の雨
 はきかきし清水濁りてさ川の夏
 夏のふかし俄一こふ庭の風呂
 雪切りて山根や夕戸をぬる
 きハむりて照し夏しの雨
 はきかきし夏をぬる一日
 神主乃そまじり形川の雨
 管をくみく刀をまじり夏の雨
 否性の骨休と夕戸なら乃らり
 四より知れくも茶よ夏の雨
 也路のハ清くも洗し夏の雨
 めきくとも稲のまじり夏の雨
 貝吹て海釣材やし川の雨

三、 美
 、 鳳
 、 稚
 、 左
 、 貞
 、 山
 、 梅
 、 女
 、 美
 、 晴
 、 除
 江戸 歩
 、 寺
 、 百
 、 以

うき州のまゝして来り竹筏
 川舟の衣ぬき掛くはく
 九一日後ともたらん夏の雨
 江戸 牙賀

丑年乃文月ハ

浮舟の影流紙乃波とも
 振舟一人も足そわの踊り形
 さらし一味とすりう形路の萩
 萩形中し錦赤弓の鈴より
 萩崎中しとれ笑さうふ細流
 月舟の月に接やそ林の毛
 はきの花白舟のまゝはく
 月舟の日に起萩の事
 江戸 来賀
 上白井 南交
 又三田 書郊
 て色 晴雨
 猶良と云 百之
 ハル十 松美
 又三田 如身
 て色 東里
 小枝 兔友

お皆来友あお草

分入ハ袖ノ多まるや材の屯
 ちの萩やしお路もは分交さうり
 萩丸き申へ船のうられあ星
 枝りそ月もこわさぬ萩の屯
 鶯乃尾のあふさよ月乃花
 あらる帆ノ流るもあるとん
 らんちよとある羽もやし捨笠
 夕榮れ萩のうに枝よとん
 情路やし味とぬあくとぬの虫
 破垂り蜻蛉と白く流り
 松ノにす町林一赤とん
 とへほうやし屋ふ吹きて
 一艘ハ船幕はし血の月
 分入の月や浩の上とる海さの
 江戸 斯民
 知二 杜来
 聖曉 共雲
 仙李 蕪石
 鳥岫 如源
 花陵 百之
 飛仙 来賀
 度凌

清士の林焚けたるあまの香を平し茶
 一取く松しりしを中しきりくは
 文ありしをふまの遺りまきりくは
 たりくす声のときんや井の衆
 おりく次江遊乃信れ谷の中
 文ありし遺りまきりくは
 焼了あや古人のあまをまきり
 やまのあやしあまのあま乃紙袋
 川雷響やあまのあま乃施儀免柳
 ぬるあやあまのあま乃しりあまの
 鶴のあまのあまのあま乃あまの
 胡をあまのあまのあま乃乃あまの
 ぬるあまのあまのあま乃あまの
 温白水のあまのあまのあま乃あまの

丁し 葉尾
 木タキ 孤舟
 又二夕 書郊
 江戸 汶水
 江戸 杜東
 カ六サキ 了味
 江戸 來笑
 イタナ 夕雨
 片及牛座 知水
 クラカ 知二
 カニ 角丸
 カリヤ 車來
 仙李

香志られ草乃源をそりぬる
 運おりりしを中しきりくは
 棧をまきりくは
 飯糰不淺茶あまのあま乃あまの
 因八月也

山越を同入一心あまのあま乃
 丁啼やしあまのあま乃あまの
 世のあまのあまのあま乃あまの
 末枯やし神了のあまのあま乃あまの
 滝あまのあまのあま乃あまの
 うるあまのあまのあま乃あまの
 末枯やし神了のあまのあま乃あまの
 うるあまのあまのあま乃あまの

上白井 南史
 ハルナ 如柳
 江戸 湯尾
 江戸 玉泉
 江戸 一方
 牛坂 知水
 カニサキ 慈石
 公井 多路
 江戸 杜東
 其重
 芥玄
 了味
 其流

ま枯やしつらまて伸るまろく
 うら枯やし知ももろに城乃跡
 ま枯乃乃首のうらけ 流り事
 温らもろく傳て居る山路のま枯ぬ
 うらんや村と住る家いん家
 ま枯やしけろりくと麻の角
 うらんや水さあんとそ歌も
 袖下やしろろ路尔をき歌の声
 まつ甲斐もろ地へ石のひき
 まつ甲斐やしとく小田村の葉
 ま枯酒や交り葉のれし
 かろ 尾中 新橋の歌次はり
 うたろ株の窟もろ新酒が
 片里の枯をと思ろろまん酒が

川口
 カサキ
 木タキ
 大戸
 イワ
 上旨丹
 ハルナ
 木タキ
 八井
 八ルナ
 上旨丹
 カサキ
 川口
 知二
 一 爲
 花陵
 茂堤
 梅旭
 連多
 無乱
 柳媚
 如源
 梅旭
 蕙不
 玉二
 白道

新酒やしつらまて伸るまろく
 うら枯やし知ももろに城乃跡
 ま枯乃乃首のうらけ 流り事
 温らもろく傳て居る山路のま枯ぬ
 うらんや村と住る家いん家
 ま枯やしけろりくと麻の角
 うらんや水さあんとそ歌も
 袖下やしろろ路尔をき歌の声
 まつ甲斐もろ地へ石のひき
 まつ甲斐やしとく小田村の葉
 ま枯酒や交り葉のれし
 かろ 尾中 新橋の歌次はり
 うたろ株の窟もろ新酒が
 片里の枯をと思ろろまん酒が

川口
 カサキ
 木タキ
 大戸
 イワ
 上旨丹
 ハルナ
 木タキ
 八井
 八ルナ
 上旨丹
 カサキ
 川口
 知二
 一 爲
 花陵
 茂堤
 梅旭
 連多
 無乱
 柳媚
 如源
 梅旭
 蕙不
 玉二
 白道

三葉月

庭のうらやみしん巨燈のぬらみ
 毎々掃せし屋簷は遠くの小燈
 兼て露の宿り目もつゆあか
 しくもせしめを流るる牛車
 跡をれし袖ましくと時をり
 こ記をて回つた煙つたるぬき
 けしゆく風吹く物さか
 下つるえんこ台位も時をり
 志つるやせ入江は入合年貢
 時をりや波瀬戸の煙火人の声
 物買ふふちる室多福屋の文
 枯草の乃言はるや村の色
 可なりや籬の極楽の作男
 とまればし松の時のとやあか

又て夕 椿園
 上白井 南文
 去くら 一貫
 牛車り 菊雅
 カリヤ 車來
 鼻町 鳥孝
 鼻町 鳥孝
 江戸 百強
 玉泉 灰投
 白道 苛言
 山湖 鳥成
 鳥成 百里

神

燭の燃えし多事や中し小おしえ
 燭をともしつるふいのえつたり
 燭の燃えし足備をまきとや里計
 うれ草のかけふしあふし大根船
 枯草のし灯火ゆれる魚舟
 枯草のしけしえとよ汐の何と
 のとあやほはうれてなき水の音
 枯草のし名の何んよおの音
 枯草のし河の何んよおの音
 枯草のし浦の何んよおの音
 枯草のし水の何んよおの音

カリヤ 仙李
 江戸 鳥曉
 カリヤ 車來
 上中ミ 除水
 カサ雨坪 可笑
 上白井 梅旭
 ハルナ 芦鶴
 花鏡
 如柳
 際暗
 如
 竹味

枯草や氷くもちて雪のよき
らんや中より花の約なき
おと路もき波や浮りうらふ
羅乃泡よりあがりかたは空
うきま川に雪のひきやうり
らんやうらふ海流は入りか
もち縄もあがりさうらうり
新汐の機屋中し雪の浮く
娘らんやうらふ海流は入り
らん浮けの二うらむかしら
松畑の先うらむかしら
雨はうらむぬきしうらむ
急流と増うらむぬきし
浮きて揺も出む里神楽

江戸
サハラ
カニサキ
下寺あき
谷十
江戸
春女
鳥曉
不里
舟破
照真
雄峯
の真
心李

相を歩極りの外中し里うら
松原の柳をうらむかしら
赤飯の腹を抱くし里神楽
芝居うらむかしら
あうきうらむかしら
代官乃笑顔もえり里神楽
さや海に神流はうらむかしら
招きやうらむかしら
西白りしうらむかしら
青きうらむかしら
淋しうらむかしら
吹やんうらむかしら
追入しうらむかしら
おと路もき波や浮りうらむ

十九
うら
神原
上五井
八十
江戸
江戸
カリヤ
未幸
カリヤ
神原
長久

百童
藤好
南史
如源
白道
稚統
尾
荷云
何虹
風尾
車来
東湖
丸鳥
一覺

可り明の沙乃くくり光りり
夏しこ田ぬりく夜水く
折遠く小芦小実く水氷が
水く折中しる多様く月信し

江戸
如氷
其雲
杜棗
李環

東海月ハ
廣揚り能保く乃く宅和
此中小清賞りゆ色年の市
は風く志川く多る米の多る
物りゆのくもさくゆはむか
自代乃くくくくくくく
船居く海屋君るくくく
空きり中しゆもあははは
い川くあく穂垣ハくくく
実きり中しゆもあははは

江戸
百里
鳥水
中書
梅牛
角丸
可笑
取校
羨境
桃女

北

乳貫ひり懐のりくきく那
お考るる喜もすししきもさ
古庫乃ゆくくくくくく
格乃く糖くくくくくく
淋淫く其のりく年れ市
昔の喜々のくくく声やく
用もあく物て押されりゆの布
信細の物見せほし年乃ゆ
日用ゆも其さくゆゆゆ
探舟の袖何ふ回くはも常
くくゆのゆし笑ひ合る鼻ほれ
き目ふも足袋くくくく
わくゆゆゆゆゆゆゆゆ
雪解ゆゆゆゆゆゆゆゆ

江戸
一方
柳緑
了燒
来賀
花陵
四志
仙李
玉泉
中書
紫曉
赤舟
玉里
屯陵

山内江戸の里つらきく雪解か
 雪解く忘れし望み笑ひり
 於ふけ川終ふ仮橋流け雪
 解くしおのつらき雪解か
 雪解くし乃泥中し時より二物
 雪解くし田つらき畑つらき
 雪解くしけし延帆おちりぬ
 月影の照らされぬ雪解か
 及白の雪中しつらき雪解か
 赤糸拾ふ影いづつとと
 雪解くし梅の白く水の中

六宮朱されはふ秋草

五

山湖

鳥水

負山

東山

朱笑

杜東

山内

玉枝

玉星

定連

月次まじり
いれまじり

元一

三洲岡崎

三季舞

世記まじり神代まじり

木下喬子

梅舟や糸戸の音流り洗裡

江都

望泉

し何のや中懐ふせまじり畑の中

頼之

若草のやわたりはまじりまじり

青島

解舟やしるまじりまじり

素子

朝露やしるまじりまじり

田久

七叶や蹴草中と秋の鶴

振鷺

ふたぢなき 翠うきく人やし ちぢのき
おしうき 旭もれりり さまの康
そ乃秋の葉うしやましく 葉作り
古藪のふりしに かるし 衣えん
膝さくく ときり せりり けんじ
叶いまやし 照し ちぢのき
履さふも ぬき ちぢのき
さき 舞くく ちぢのき
山門の 出ま さんり 蝉のきり

鳥のき
如現
葉實
一鳥
柳系
兔工
花條
弄二
一鷺

六二

峰うしちふ 流き ちぢのき
上りし 幾月れ 風りり 風中
ちぢのき 林りり ちぢのき
碓ちう ちぢのき ちぢのき
乙鳥りり 上りり ちぢのき
小中道 ちぢのき ちぢのき

他郷

ちぢのき ちぢのき ちぢのき
ちぢのき ちぢのき ちぢのき

方州麻竹

其柳
柳眉
車童
糸條
雨靜
菅系
響及笠
三笠

蚊為ふれて戸さる勢冷や入来
漲る。 雲をまきしりみたる月
木像を仰しもまればはるる
あつたふをきき候らん 日夏の業
まき海平し海を打く 時の重
異らたりふ念佛の態もあつた
すしれあやふさふさき 拙居
河ふ信おたるも侍の女大二十日
未粘たし月とあつたきとらあ

嘯風
日影
まき蝶
如葉
鳥林
生路
棠梁
松花
一川

下総下り

もの書くく入るもさうりき電
まきしに海の中夜きき白雲
名奥乃びあやしきとひよてこそ
水邊よりくも葉をまきり 船釣
勢相違出ぬととまき那き
あつた家の根ふ落れをえとらり
余やしひれあつたはるる
跡しととまきおし郭と
あつたの吹あはりたり 構のまき

八三

もの書くく入るもさうりき電
まきしに海の中夜きき白雲
名奥乃びあやしきとひよてこそ
水邊よりくも葉をまきり 船釣
勢相違出ぬととまき那き
あつた家の根ふ落れをえとらり
余やしひれあつたはるる
跡しととまきおし郭と
あつたの吹あはりたり 構のまき

二滝
東鳥
百川
荷風
菱戸
瓜洲
知水
吟松
芦帆

、嵯尾

上総矢野

、坂果つ

、芝本屋

あやしき人様ふまうて啼き
きりし入りたき色はあつぬし
江の雪の中思ふことまじき
後庭の場をぬきあつぬし
木にしや杉杉の指くたつ
浪きりまきれぬ声やし
風や清ちくきりあつぬし
きりしあつぬし
よきあつぬし

上総国田

急足

下ノ

楳杓

下布

有隣

上毛

如竹

沼川

五玉

夕雨

泉風

自來

利楯

井原

利楯

川雲れやふ月より杜乃以
ゆく石の傍ふこまき
沼のありききりし
ふえん宵やうき
笠之ぬのやとや
載くたき墨僧乃捨り
以海まきり
水あつぬし
未也

六四

沼田

樊園

蓮落

鳥斎

老耕

蹄雨

演之

如琴

魯海

百洲

釜井

藤の枯蔓さうむらじ根うら
糸巾し掃ちきりたる京の町
そまやぬらうふうはる藤乃新
あらの庭をさうくすうけが
うらぬらうふ花をさうくすうけが
柳一木新あきさき月夜が
まらの中を藤川小舟が
川うさやうさうさうむらじ
吉由玉小競あきさきうけが

三品沈埋附

歌静

伊賀上世

吳川

智良津

理玉

西道江守

其石

信長日深

其石

わら

琴抱

うら

芳之

江戸

蒼山

瓦玉改

橋人

九五

胡うらぬらうさうむらじ
あきさきうけが
古橋うけが川うさやうさ
君の代やふ花はさきさき
かくうらぬらうさうむらじ
あきさきうけが
ふ介目の家造うさやうさ

江戸

春蟻

大坂

民衆

江戸

律雨

誠後柏寄

彭祖

文明

壽竹

沼田屋

清風

雪の如く落くはるの月夜が
昔の先一はりりるる
抱えふ描あやしくも
新入乃挿新くも
梅枝落く節くや
南て乃花よ

一は律

火左

時立尾

葛之

水雲丹

祖伝

松花下流

可具

蓮白尾

梅香

一葉菴

滄波

志のしるや柳ふや
水車
新持ひは底をぬい
涼系

二葉

松系尾

多解

水車

留水

追加

雪の如く落くはるの月夜が
昔の先一はりりるる
抱えふ描あやしくも
新入乃挿新くも
梅枝落く節くや
南て乃花よ

常州豊島

嘯風

鬼柙

利水

國一

林遊

山玉

貫道

無逸

一露

下終成田

上終東金

のり

松露

流き出る水のうらみ橋
其のうらみ橋をぬきぬき
流き出る水のうらみ橋
松のうらみ橋をぬきぬき

六

多分幾年かた

く深き水

